生駒フォーラム

No. 106
発行責任者
高柳　忠夫
（奈良県議会議員）
事務局 東新町2－10
市民オフィス内
TEL. 71-7700
FAX. 71-7800
http://www1.kcn.ne.jp./~forum/
E_mail. forum@kcn.ne.jp

映画「わすれない　ふくしま」

監督　四ノ宮　浩

上映　8月25日(日)13時から

場所　生駒セイセイビル市民ホール

東新町の市民オフィス前、野外ふくしまパネル展示に、見入る中学生たち

つよく生きる。今はそれだけ。

さようなら原発プロジェクト、『祝の島』上映につづき

「わすれない　ふくしま」上映！

日　時：8月25日（日）13:00開場　13:30上映

場　所：生駒セイセイビル　1F　文化ホール

協力券：1000円

主　催：生駒フォーラム　後援：奈良平和フォーラム・教育連合

昨年1月に開催し皆様に大変ご好評をいただいた「さようなら原発プロジェクト第一弾『祝の島』上映会」に引き続き、その第二弾として、四ノ宮浩監督の「**わすれない　ふくしま**」の上映会を開催いたします。

震災後2年の節目にあたって放映された震災関係の特別番組には、「感動話」が多かったように思います。

この映画はその正反対の内容です。全村避難を強いられた飯舘村の人々のその後の重たく、そして生々しい現実を伝えます。震災前には「日本一美しい村」と評された村が、そこに住まう人々が、どう壊れていくかを克明にカメラは追います。

日々の忙しさの中で忘れがちで、また距離的にも離れたここ奈良にあって、この現実がまだ進行中であることを思い起こさせてくれる映画です。

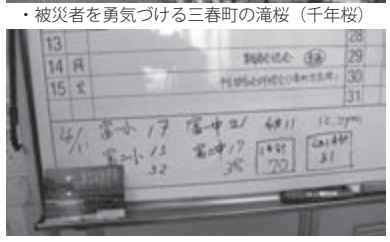
そして、その日常を根っこから壊した『原発』について今一度、考えたいと思います。

「**わすれない　ふくしま**」を是非ご覧ください。

・広瀬要人飯舘村教育長と対談する高柳忠夫県議

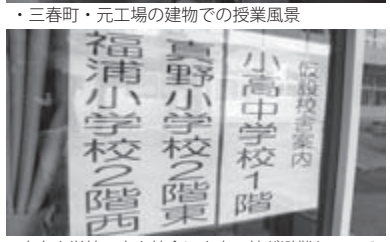
・いわき市に疎開している広野中のあるクラスで

・被災者を勇気づける三春町の滝桜（千年桜）



・富岡町の小中学4校が三春町工場跡に避難している

・三春町・元工場の建物での授業風景



・鹿島小学校の空き校舎に小中三校が避難している

東日本大震災復興写真（パネル）展　開催中

歯科医師のボランティアが撮った写真パネル

8月1日から始まったせせらぎのパネル展示場

震災発生直後から、ボランティア活動に関わられている方々の協力を得て、**[わすれない ふくしま]**上映の前イベントとして、市内巡回パネル展を行います。**原発事故を風化させない！**

①日時：8月1日（木）～6日（火）
※8/5は休館
場所：南コミュニティーセンター せせらぎ

②日時：8月7日（水）～11日（日）
場所：北コミュニティーセンター はばたき

③日時：8月23日（金）～25日（日）
場所：生駒セイセイビル 2Fギャラリー（※8/25はホール前）

南相馬市の県立小高工業高校3年の高野桜さんのアピール（原発のない福島を！県民集会にて）

『小高町に家があり山形県に家族で避難、仕事の関係で私と父、弟は南相馬へ、母と兄、妹は山形に残る。一時帰宅は懐かしく嬉しい。散乱している家の片づけで終わる。写真や友人の手紙を持って帰る。至る所にある放射線を計るモニタリングポストがある事、仮設住宅に住んでいる事、友人や家族と別れての生活。私たちは普通でない事を当たり前に感じる事はおかしい。つらい体験をした私たちが、原発事故を風化させない様に発信を続けたい。』と訴えました。

「障害者差別なくす奈良県条例」を作ろう

7月21日、第2回障害者差別をなくす奈良県条例をつくる実行委員会

障害者差別をなくす奈良県条例をつくる実行委員会のメンバー（障害当事者）が、高柳忠夫県会議員（生駒フォーラム）と障害者差別をなくす条例制定に向けての話し合いを行いました。

障害のある人の権利や、障害を理由にした差別の禁止などを定めた条例は、全国では千葉県に始まって、熊本県など7自治体で実際に条例が制定され、京都府でも検討委員会を設置して条例制定に向け論議が重ねられています。

今日までの、奈良県の障害者への福祉制度の充実や交通機関の改善、福祉のまちづくりなど様々な取り組みが行われてきましたが、「障害のある人が一生懸命働いていたのに暴力を振るわれ、給料をもらえず、障害者年金を横領された『大橋製作所事件』」や「地元中学への進学を拒否された下市町の障害のある生徒さんの訴訟」などがありました。

盲導犬を連れているのでお店に入れてもらえない、店の入り口に段差があるため車いすでは入れない、地域で自立することが難しく施設入所を余儀なくされている、障害者の作業所やグループホームを作ろうとすると反対されるなど、障害のある人々の生活や権利が十分に保障されているとはいえず、障害のある人の心を傷つける行為や不平等な扱いがまだまだ多くあります。

障害があっても地域で普通に暮らしたい、同世代の仲間と一緒に学校に行きたいと多くの障害のある人が望んでいます。

障害があってもみな一生懸命生き、社会のため働きたいと努力しています。この努力を、誰もが尊いと共感し、障害のある人もない人も共に生きる奈良県を作っていくために、条例の制定が必要です。

今後、条例制定に向け、署名活動を行います。皆さんのご支援をお願いいたします。

実行委員会の障害のある当事者が中心となって打ち合わせ

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」in奈良

とき　10月19日（土曜日）正午から20日（日曜日）正午まで
場所　奈良県立橿原公苑陸上競技場

「奈良県が第1期がん対策基本計画を全国最後に制定した県であった」ため、昨年、第2期がん対策基本計画を策定されるにあたっては、今度はそのような後れをとっては議会の責任にもなると言うことで、**県議会に議員が全員参加する「がん対策推進議員連盟」（事務局長に高柳忠夫県議会議員）を結成し**、「がんにならない、また、がんになっても安心できる」奈良県を目指すため、様々な取組をすすめてきました。

がんによる死亡者数は約35万人にのぼり、死因の第1位で、2人に1人が、がんを発病するといわれ、**がん医療体制の充実が急務です**。質の高いがん治療を提供するがん診療連携拠点病院のがん診療の水準の向上させること。そして、二つ目に**がん検診の推進が重要です**。今日、医学の進歩により、たとえがんが発生しても、早期に発見し、適切な治療を受ければ、かなりの確率で治癒、生存が可能となっています。それには、県民が定期的にきちんとがん検診を受けることが必要です。現在のがん検診受診率は、残念ながら、二〇から三〇%前後で、**がん検診受診率五〇%達成に向けての体制づくりが重要です。**

さて、奈良県では初めて開催されるリレー・フォー・ライフ・ジャパンは、「がん患者もチームでリレーしながら夜通し歩き、絆を深め、がんになっても希望をもって生きていけるように社会意識を変える」ためのチャリティイベントです。このイベントで集まった募金は、「がん検診受診率アップ」や「若手専門医師を育成するための奨学金」に役立てます。

「がんと告知された人」や「がん患者を支える家族、医療従事者、地域の人など支援者」の方々の貴重な交流の場となります。

このイベントに対しての参加希望やご質問は市民オフィスにお寄せください。

盛夏！美味しい「もも」を求めて

桃の王様『嶺鳳〔れいほう〕』を初め、『白鳳』
『川中島白桃』を求めて、紀ノ川筋へバスツアー
県下初の産直センター・まほろばキッチンも

美味しい「もも」を求めて、紀の川筋へバスツアー。ももの生産者、めっけもん市場、JA牧野直売所、今年橿原に開設した「まほろばキッチン」ともも農家や朝市を巡ってきました。

まほろばキッチンは高校の統廃合の耳成高校の跡地に作られました。

奈良の高校生一人あたりの教育費は全国1位の低さで、奈良を1とすると京都は2.5倍、大阪は1.8倍。また、この跡地には県の福祉事務所などが統合されましたが、最寄りのバス停は200mも離れています。という話も織り交ぜながらの「食を考える」バスツアーでした。

奈良県初の産直センター・まほろばキッチンで記念撮影

11月17日に予定
晩秋の西吉野へ　柿ツアー
柿の生産者組合やJA出荷場、五條森町の重要伝統的建造物群保存地区、五新鉄道の鉄橋跡などを見学

左写真は、大和の名産なのに「江戸柿」と呼ばれます。つるし柿にすれば、絶品。